

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

October 22, 2021

豪ドル・ZAR、コモディティに連れ堅調か

- ◆豪ドル・ZAR、鉄鉱石価格やエネルギー価格が底堅いことで堅調か
- ◆豪ドル、7-9 月期 CPI に要注目
- ◆ZAR、短期的には堅調予想も、スタグフレーションの可能性には警戒

予想レンジ

豪ドル円 83.00-89.00 円

南ア・ランド円 7.60-8.20 円

10 月 25 日週の展望

豪ドルは堅調か。引き続き鉄鉱石・石炭などのコモディティやエネルギー価格の動向が豪ドルの動きを左右しそうだ。今週、中国政府は主要な石炭生産業者や業界団体、中国電力企業連合会と協議し、政府の介入によって急上昇の石炭価格を引き下げる措置を検討。石炭価格等は一時上昇圧力が弱まった。しかし、エネルギー価格の上昇は中国だけでなく、ユーロ圏や英国などを始め多くの国で深刻な問題となっている。エネルギー価格の上昇が落ち着いた限りは、様々なコモディティの生産が戻ることは難しく、政府介入でのコモディティ価格の抑えには限界があるだろう。資源が豊富な豪州の通貨・豪ドルは当面は堅調地合いを維持しそうだ。

来週は豪州からの経済指標で最も注目されるのが、27日に発表される7-9月期の消費者物価指数(CPI)となる。今週公表された豪準備銀行(RBA)議事要旨では「CPIが持続的に2-3%で推移するまで利上げはしない」としている。7-9月期は今月ほど原油価格が上昇していなかったこともあり、大幅な上昇は予想されていない。しかし、10-12月期は原油高によるインフレの高まりを予測する声も強く、第4四半期の土台となる今回の数値にも注目が集まる。また、29日は生産者物価指数(PPI)の発表も予定されている。

南アフリカ・ランド(ZAR)は短期的には底堅いか。豪ドル同様に資源国通貨のZARは、コモディティ価格の上昇が支えとなり、堅調な値動きが続いている。また、ヨハネスブルグ証券取引所(JSE)の8日付のデータによると、この1年間で非居住者の南ア債の購入は219億ランド増加している。南アの10年債利回りは9%台という高水準で推移しており、依然として海外投資家の債券購入意欲が強いことも、ZAR買いと要因となっている。

ただし、中長期的にはネガティブ要素は多い。今週発表された9月CPIは市場予想通りとは言え+5.0%まで上昇した。5カ月連続で南ア準備銀行(SARB)の目標中心値の4.5%を上回った。特に原油高騰の影響で、国内のガソリン価格は昨年9月の1リットル15.18ランドが、先月は過去最高となる18.34ランドまで上がっている。これにより輸送コストも10.1%上昇するなどインフレが進んでいる。中長期的には、インフレ下の経済停滞といったスタグフレーションに陥る可能性にも注意しておきたい。

10 月 18 日週の回顧

豪ドルは堅調に推移した。先週に引き続き原油価格に連れたコモディティ価格の上昇が、資源国通貨である豪ドル買いを後押しした。対ドルでは一時7月上旬以来となる0.75ドル台、対円では2018年2月以来となる86円台まで上値を広げた。なお、10月のRBA理事会の議事要旨は新味に乏しい内容で市場は反応が薄かった。また、中国の7-9月期国内総生産(GDP)も市場予想を下回ったが、市場の反応は限られた。ZARも底堅い動きだった。コモディティ価格の上値がZARを支え、対ドルと対円ともに大幅に上昇した。(了)